

はあとぴあ学園

さくら国際高等学校富山キャンパス

令和四年度卒業証書授与式

式辞

厳寒な季節が過ぎ、峻険立山を覆う真っ白な雪化粧も平地ではすっかり消え、草木の芽吹きや鳥のさえずりに、暖かな春の到来を感じる今日この頃です。

この良き日に、はあとぴあ学園さくら国際高等学校富山キャンパスの令和四年度卒業証書授与式をこのように厳粛に行なうことができ、十五名の卒業生の皆様が新しい生活に旅立つ場面を迎えることができましたこと、心から喜びを感じています。

特に六名の卒業生は本校の第一期生であり、前校長高和洋子との面接を経て入学したメンバーです、卒業の日を、天国から見つめ、喜んでいるものと思います。。。

「ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には重ねてお礼を申し上げます、今後とも本校の教育に益々のご理解を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。慈しみ大切に育ててこられたお子様の立派に成長されました姿に感慨もひとしおのこととご推察申し上げます。

三年間の高校生活を経て、お子様は心身ともにたくましく、頼もしい大人へと成長されました。どうかお子様の輝ける前途を温かく見守り、時には励まし、これからも支えていただきますようお願いいたします。

皆様方には、開校間もない当校に信頼を寄せただき、三年間にわたり、本校の教育活動推進のために、温かいご支援と多大なるご協力を賜りましたことをこの場をお借りして、教職員を代表して心から厚くお礼を申し上げます。今後も引き続き、お力添えのほど、よろしくお願いいたします。

また、卒業生のみなさん、卒業おめでとうござい  
ます。みなさんは、入学以来たゆまぬ努力を積み重ね、  
本校所定の教育課程を修了し、めでたく今日の日を  
迎えました。

今日を迎えるまで、様々な困難があつたことと思  
います。ご家族のみなさんと、ともにその困難を見事に  
乗り越えて、今日の日を迎えることができたことに、心  
より敬意を表したいと思います。

みなさんと同じような困難を経験してきた在校生  
にとつて、前を行っているみなさんの頑張っている姿が励  
みとなり、頼もしく思えたに違いありません。皆さんが  
残してくださって足跡は、本校の財産であり、宝物と  
なります。

ところで、私たちは、みなさんが中学校や高校で挫  
折して本校に来たのではなく、自分にふさわしい場所  
を自分の意志で選んで来たのだと考えています。

そして頑張つて卒業したことは、確固とした自分の意志を貫き、やり遂げたことにほかならず、これ以上の自信につながることはないのです。

はあとぴあ学園は、創設者である高和洋子が、社会的排除が顕著になっていることを憂い、その壁や障害を取り払つて、分け隔てのない社会をつくるインクルーシブ精神に基づいて開設した学園です。

彼女は、人間一人一人が持っている意志を最大限に尊重し、意志はいのちそのものであり、困難を切り開き、夢を実現していく力の源泉であると考え、その意志を保障する安心できる居場所を提供することに生涯を賭けて、情熱を注いで取り組んできました。

一人一人は、この世界に生まれ、この大地に生きています。誰一人例外なくその生命の尊厳は、守られなければいけません。また、誰かに傷つけられたり、恐れを抱かせられたり、否定されたりされるものではなく、崇高なものなのであること、人の心を動かすものは、地

位や名誉、学歴ではなく、思いやりであることに気づいた人たちの集まりが、この学園であると考えています。

居場所では、お互いを尊重し合うもの同士の流れあいを通して、暖かさを感じ、心が洗われ、磨かれていきます。

そのように、受け入れられ、認められ、理解されて、という経過を辿りながら、自分の意志が確立し、それが基礎になって、自分が進む方向を考えることができるようになっていきます。

新しい時代の担い手は、君たちのように、自分の意志を持ち続け、逆境に打ち勝った経験を持ち、人間性が大切なものと気づき、人を傷つけることなく、お互いに尊重できる心や思いやりの精神を育てている若者たちです。

終わりに、みなさんが、自分の夢に向かって、たゆまぬ努力を続け、より力強く成長し、夢をつかむ日が来

ることを信じて、前を向いて進んで行っていただくことを願っています。

皆さんの前途に幸多からんことを心よりお祈りし、式辞といたします。

令和五年二月十日

はあとぴあ学園

ナブル国際高等学校富山キャンパス

校長 高和 正純